

## 地元出身隊員の働く環境を通して自衛隊を知る



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己二等空佐）は、11月8日（木）、静岡自衛隊家族会が実施した陸上自衛隊富士学校（駿東郡小山町）研修を支援した。

同会の研修は毎年実施されており、会員は静岡市葵区と駿河区の隊員家族で構成されている。今回の研修では、地元出身隊員が活躍している富士学校を訪問し、隊員の激励を行うとともに自衛隊への理解や防衛意識を高めるため、國松誠会長をはじめ13人の会員が参加した。

参加者は到着後、富士学校資料館において同校担当者から駐屯地所在部隊の紹介や、陸軍から始まる陸上自衛隊の沿革などについて説明を受けた。その後、屋外において10式戦車や戦後米軍から供与された数々の戦車、特科部隊で使用していた155ミリ自走榴弾砲など歴代の装備品を見学し、陸自装備品の移り変わりについて説明を聞いた。

昼食は静岡市出身隊員4人を交えて隊員食堂において会食し、激励を行った。その後、隊員の憩いの場である厚生センターを見学し、隊員の生活環境などを体感して自衛官募集活動の見聞を広めた。

参加者からは「勤務地が違えども、わが子もこのような環境で勤務や生活していることを知ることができて安心した」「今年入隊した隊員が目を見て自分の仕事のやりがいなどを話してくれて、頼もしく思えた」などの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後も家族会と緊密に連携をとり、同会による地元出身隊員の士気高揚を支援するとともに募集基盤の拡充を図っていく。

## 「袋井市ふれあい夢市場」に自衛隊初出展



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己二等空佐）は、11月1日（日）、袋井市浅羽支所前で行われた「袋井市ふれあい夢市場」において自衛隊をPRした。

これは、ふれあい夢市場実行委員会が主催し、地元の産業や地域を盛り上げる目的で例年開催されている。自衛隊は袋井市役所危機管理課の協力により、今年初めての参加となった。

当日は暑いほどの秋晴れで、会場にはメインステージのほか50を超える出店が立ち並び、1万人を超える来場者で大いに賑わった。

静岡地本は右島康弘自衛官募集相談員とともに広報ブースを開設し、自衛官の採用年齢が33歳未満に引き上げられたことなどを盛り込んだ制度説明を行ったほか、災害派遣などで活躍する中型トラックや偵察用オートバイの展示、家族連れの来場者を対象とした子供用迷彩服の試着と記念撮影などを行った。

来場者からは「いつも日本のためにありがとう。これからも頑張っていきたい」「元航空自衛官だが、採用年齢が上がったのもう一度受験するか考えたい」などの声を聞くことができた。

静岡地本は、今後も各市町と緊密に連携した広報活動を積極的に行い、地域住民の自衛隊に対する正しい認識と理解の向上に努め、ひいては防衛基盤の強化を図っていく。